

三島駅南口周辺開発 地下水対策検討委員会

第3回検討会

- 第2回委員会の対応等 -

平成29年10月24日(火)

1. 第2回委員会における

主な質疑・応答の概要

1. 第2回委員会における主な質疑・応答の概要

	質問等	応答、今後の対応等
<p>(1)三島駅周辺の地下水・地質調査結果について</p>	<p>委員:駅の北側は溶岩ではなく、堆積層や溶岩層が薄くなっている確認している。図の北側全てを溶岩層厚10m以上にすることは問題ないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 調査を実施した場所は溶岩の層厚が把握できるが、調査を実施していない場所は分からないため記載していない。 図では北側まで溶岩の層厚が10m以上続くように見えるが、図の範囲内である事を理解頂きたい。
	<p>委員長:三島は溶岩流の末端に位置している。溶岩流の末端では空間的に層厚がばらつくことが確認できている。今回の調査は末端付近で行ったものであるため、少し離れた位置で異なる層厚になることは十分に考えられる。</p>	
	<p>委員:玄武岩溶岩は三島溶岩とあるが、火山灰質粘性土層(ローム層)は御殿場泥流のことか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 御殿場泥流ではない。ローム層とは、火山が噴火し、降った火山灰が堆積したものである。 三島溶岩は、このローム層の上を流れてきたと考えられている。
	<p>委員:三島溶岩は約1万年前のものといわれているが、ローム層はいつのものか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 約5万年～10万年前だと考えられる。 委員長:ローム層は火山灰が降り積もったものなので、様々な年代のものが混ざっていると思われる。 委員長:調査で把握できる点のデータを、空間的に広げる際には確からしい広げ方をする。一方、今回の溶岩流の末端の例など不規則に分布する箇所があるため、自然に対して謙虚になる必要がある。

1. 第2回委員会における主な質疑・応答の概要

	質問等	応答、今後の対応等
<p>(2)西街区業務の検討状況について①</p>	<p>委員:今後の検討として「建物の耐震性を確保し、地盤についても地震時の安定性を確認」とあるが、今回の検討委員会で、具体的に<u>耐震性を担保する耐震設計の基本計画の話は聞けないのか</u>。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 現時点では、回答できない。 ⇒本委員会で説明
	<p>委員:次回検討委員会の11月頃は確認申請を提出する時期であり、耐震設計は決まってしまうと思われる。 その前に確認したい事項がいくつかある。 特に、<u>地震力を1.2倍に変更する静岡県条例改正に対応する耐震設計の考え方を聞きたい</u>。例として、地震時に建物の浮き上がり転倒する可能性等の担保、構造計算の話など。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 本検討委員会は地下水に対する対策検討を主としているが、耐震設計等の話も建物を建てる上で重要となる。 • 次回検討委員会までに、説明の場を設けるよう事業者と調整中である。
	<p>委員長:本検討委員会は地下水に対する事項が主だが、地下水保全という観点と耐震という観点は相反するものではないため、双方しっかり見ていくことは重要と考える。 <u>11月の検討委員会での報告だけでなく、個別に委員に話を聞く機会を設ける必要がある</u>と考える。その上で、必要があれば検討委員会を11月以前に開く事も考える必要がある。 しかし、建物の構造は本委員会の趣旨とは少し外れるので、<u>個別に委員長と建築の専門家の委員とで対応する</u>ことを想定する。検討委員会の開催については委員長に一任頂きたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⇒本委員会で説明

1. 第2回委員会における主な質疑・応答の概要

	質問等	応答、今後の対応等
<p>(2)西街区業務の検討状況について②</p>	<p>委員:直接的に地下水の事とは関係ないが、<u>根入れ深さが浅く心配なので、個別の協議</u>をお願いしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 委員と細かいところを含め検討する。 ⇒本委員会で説明
	<p>委員:地下水のモニタリング計画案があるが、事業によって<u>地下水に何らかの影響が出た場合、測定値にどのように現れるのか。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 本事業による地下水への影響として流動の阻害を想定している。もし影響が出た場合は、建物の基礎が影響し、地下水の流れの下流側に地下水位の低下や湧水の減少という形で現れると思われる。 現在のモニタリング計画では、<u>地下水の状態を工事前から測定することとなり、その結果と工事中の結果を比較することで影響を確認する。</u>
	<p>委員長:水質の評価を水位・pH・電気伝導度・水温の4項目で行うことは難しいため、年に2回の各種イオンの測定も含めて評価する。 電気伝導度などの値は雨によって希釈され変化するが、イオンの比率は地下水の起源や地下水の流れが変わることにより変化するため、<u>モニタリングの継続により、これらの変化を把握</u>できると考える。</p> <p>委員:大きな構造物を直接基礎により支えることとしているが、<u>長期な影響が考えられないか。</u>現在は建物を支える強度を地盤が有していても、将来的に地盤条件が変化し、何かしらの影響は出る可能性はないのか、<u>建物として大丈夫なのか、もう一度確認したい。</u> また、<u>地下水モニタリングにより何かしらの影響がでた場合、どのような体制等により対応を行なっていくか明確化する必要がある</u>と考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 建物の耐震性等については、事業者と検討を重ねており、安全を担保したものになっていくと考えている。<u>最終の検討結果は、次の検討委員会で伝える</u>予定である。 工事中のモニタリングにより、工事が原因による明らかな影響が確認された場合、即時中断して原因の究明を行い、対策を行なった上で工事を再開することになる。<u>十分な対応を行えるよう市役所内で検討を進めていく。</u> ⇒本委員会で説明

1. 第2回委員会における主な質疑・応答の概要

	質問等	応答、今後の対応等
(2)西街区業務の検討状況について③	<p>委員:この委員会は常設ではないため、<u>定期的にモニタリング結果を報告・確認する場は設けるのか。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 検討する。 ⇒本委員会で説明
	<p>委員長:工事後もモニタリングを続けていく場合、<u>定期的にモニタリング結果を確認する場が必要</u>となる。 次の検討委員会で検討結果を示して頂きたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市では、現在地下水位のモニタリングを7箇所で行っており、7月から水質調査を4箇所で行う予定である。 ⇒本委員会で報告 事業者も工事中のモニタリングを計画しており、地下水モニタリング体制としては十分であると認識している。
	<p>委員:<u>モニタリング項目は、妥当であると考えてよいか。</u>グラウンドワーク三島は「市民監視システム」を強化している。これについて、市の対応方針を聞きたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 委員長:<u>モニタリング項目は妥当だと考えている。</u>市は、地下水位と地下水質のモニタリングを予定している。 対象範囲の水文地質状況等を踏まえると、現在予定されている地点数は空間分布的に十分で、モニタリング項目も建築物の影響を捉えるのに十分であり、妥当性があると思う。 グラウンドワーク三島における「市民監視システム」については、具体的な方法等を伺っている訳でない。地下水への保全について不安を抱える方が大勢いることを理解しているつもりであり、丁寧な対応を考えている。 <u>市民の皆様とできる限り協力を行いながら、不安の払拭に努めていく。</u>

1. 第2回委員会における主な質疑・応答の概要

	質問等	応答、今後の対応等
<p>(2)西街区業務の検討状況について④</p>	<p>委員:グラウンドワーク三島から具体的な方法を伺えたら、しっかり情報を共有し、協力していてもらいたい。</p> <p>委員:提供されるデータはあまり信用していない。また、地盤の中は見えないので不安がある。現在、我々は全権を持っていると考えるが、工事が始まると事業者に権力が移ってしまう懸念があり、検討委員会の活動はただのお願いごとでしかなくなる。この場合の安全性の担保について、意見を聞きたい。</p> <p>委員長:モニタリングデータの信用については、同感である。経験として、学識よりも現場で業務を行っている方の情報は重要と考えている。事務局は丁寧に対応し、現状できる限りの努力を行なっていると思っている。しかし、データに完璧というのはないため、引き続き真摯に対応していく事が重要と考える。</p> <p>委員長:保全と持続可能な開発における国際的なスタンダードは、行政・事業者・住民と異なるステークホルダーが同じテーブルに着き、意見交換をしていく事である。引き続き、体制について検討をお願いします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市としても、事業者に対し出来る限り真摯に対応することを求め、地域経済にも貢献するようお願いしていく。

1. 第2回委員会における主な質疑・応答の概要

	質問等	応答、今後の対応等
(2)西街区業務の検討状況について⑤	<p>委員：事業者との契約条項に、委員長の意見を盛り込むなど、本検討委員会で約束事項を守らせるような対応をとって欲しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 委員長：本検討委員会の目的は地下水対策検討であるため、ご意見について決める事はできない。 本検討委員会の役割は、地下水の保全と持続可能な開発のバランスを図りながら方向性について意見を交わすことである。 検討委員会は、委員会での検討結果をしっかりと市長に返すことがミッションであり、前提として市民などの意見を尊重していくことと考えている。初回の検討会において、市長から委員長の委任状を受けた時にそのように理解した。 したがって、検討委員会で交わした意見は、市長が真摯に対応していくべき内容と思っている。
	<p>委員：当該地の地盤の空洞の状況について、表面波探査等の結果を踏まえた見解を聞きたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 探査した地盤中にはこぶし大の小さな空洞がある可能性はあるが、陥没が起きるほどの大きなものは無いと考えている。